

海洋汚染について

14

海の豊かさを
守ろう



- (1) 海洋汚染の問題
- (2) 海洋汚染の原因
- (3) 海洋汚染の解決策
- (4) 編集後記

松尾 森内 松本

海洋汚染の問題

みなさんは、現在、海洋汚染が世界的な問題になっていることを知っていますか。海洋汚染が進んでしまうと、私たちの生活にも大きな影響が出てしまいます。

「環境」に与える影響

プラスチックは石油から作られており、さらに焼却処分する際には二酸化炭素も発生します。

「人体」に与える影響

海洋プラスチックごみは、海洋生物や塩、飲料水などから人の体内に取り込まれてしまいます。人体に物理的にダメージを与えるだけでなく、体内で溶けだした化学物質をためこんでしまうおそれがあるため、健康への影響が懸念されています。

「海洋生物（生態系）」に与える影響

ウミガメなどの海洋生物は、えさとまちがえてプラスチックごみを食べてしまうことがあります。また、ゴーストフィッシングといって、管理されないまま海中にある漁網などが、継続的に海の生き物を確保し続けることもあります。また、汚染物質やごみが生態系のバランスをくずし、サンゴ礁や海草などの重要な生態系を破壊します。

このように、海洋汚染はたくさんの悪影響をおよぼすことがわかりました。特に、プラスチックごみは深刻な問題となっています。プラスチックの生産量は増えていて、1950年代の約200倍にもなっています。また、毎年、大量のプラスチックごみが世界の海には流れ込んでいます。このままでは、2050年にはプラスチックごみの量が海にいる魚の量を上回ると予想されています。このプラスチックごみは、自然に分解されることはありません。

ですが、プラスチックごみ以外にも海洋汚染の原因となるものがあります。
(松尾)



海洋汚染の原因

海洋汚染の原因として挙げられるのは、陸上からの汚染、海底での活動による汚染、公海での深海底での活動からの汚染、ごみの投棄による汚染、船舶からの汚染、大気からの汚染などです。ここでは、3つのことについて詳しく紹介します。

①ごみのポイ捨てや不法投棄

海洋環境にあるプラスチックごみの80%以上が、陸上から発生したものであり、その中でも意図的に廃棄されているものもあります。

②船舶からの油の流出

海洋への石油の流出は生態系への影響も強く、魚はもちろん、水鳥や海獣類の生命を脅かし、さらに海藻類の生長にも悪影響を及ぼしてしまいます。

③企業の工業廃水や廃棄物

日本では、工場排水への規制が強化されており、海洋汚染の件数としては少なくなっています。工場排水による汚染のほとんどが、故意によるものである点が問題といえます。

このように、私たちの知らないところで、海は汚れていっているのです。では、きれいな海をこれからの未来に残し続けるために、わたしたちにできることはあるのでしょうか。(森内)



海洋に流入するプラスチックの 年間推定量は何万トンでしょうか？

①100万トン ②400万トン ③800万トン

海に流れこむプラスチックの年間推定量は約800万トンであることがわかりました。

海洋汚染を防ぐために、個人でできることはたくさんあります。みなさんは、「3R」を知っていますか？

○リデュース・・・マイボトルやマイバッグを使用し、使い捨てプラスチック製品を減らす。

○リユース・・・シャンプーなどは詰め替え用製品を選び、プラスチック容器の再利用を心がける。

○リサイクル・・・正しい分別方法でプラスチックごみをリサイクルに出す。

この「3R」であれば、海洋汚染の大きな原因の一つであるプラスチックごみを減らす取組としてすぐにできると思います。

また、日々の生活習慣を見直すことも大切です。

みなさんは、食器を洗うとき、油や洗剤を大量に流していませんか？洗う前に、油をふきとったり、流しに水切りネットを使い、生ごみを残さないようにすることも海洋汚染を防ぐことにつながります。

家族でキャンプやピクニックに行くときなど、レジャーで出たごみは必ず持ち帰るようにしましょう。絶対に、ごみをそのままにしたり、ポイ捨てや不法投棄をしてはいけません。

一度、清掃活動に参加してみるのもいいかもしれません。

このように、私たちの身の周りにも、海洋汚染の解決策がたくさんあります。自分にできることを少しずつしていきましょう。

(松本)

編集後記

- 僕は、この記事を書くまで海洋汚染の解決策はリサイクルしか知りませんでした。
でも、この記事を書いたことで「個人で出来ることは結構あるのだな」と思いました。
今回調べてわかったことをこれからの生活に生かしていきたいと思いました。(松本)
- はじめは、海洋汚染のことをあまり知りませんでした。でも、パンフレットをつくったことで、海洋汚染は海だけではなく地上にも被害が出ることを知り、海のごみだけでなく、身近なところにゴミが落ちていたら拾いたいと思いました。(森内)
- ぼくが初めて知ったことは、世界の海には大量のごみがあり、2050年には魚の量よりプラスチックごみが多くなってしまうということです。それを知って、とても驚きました。だから、これからは自分にできることをしていきたいと思いました。(松尾)